

みさと美夕稀

少年執事



novel:miyuki misato presents

みさと美夕稀



少年  
秘録



こちらに  
おいで  
でしたか

麗華<sup>れいか</sup>さま

なあに?  
式神<sup>しきがみ</sup>



きょうは  
ごあいさつを

あいさつ?



これから  
麗華<sup>れいか</sup>さまを  
お守り<sup>まも</sup>りする  
式神<sup>しきがみ</sup>真<sup>まこと</sup>です



ほら  
ちゃんと  
あいさつを  
するんだよ  
真<sup>まこと</sup>

はじ…め  
まして…

ぎやう…

当時

あ…  
お  
おじょうさま

きようから  
お嬢さまのために  
生きることに  
なりました  
式神真です

私は

7歳

お小路家の  
たつたひとりのおとまり娘で  
式神は大小路家代々の執事頭  
真は式神の一人息子で

真はこのとき  
まだ  
5歳の子ども

自分に  
与えられた  
運命の  
重さなんて  
わかっていない  
だろうに

それでも  
まっすぐに私を  
みつめて  
いった一言は

たしかに私の心に  
響いた

おはよう  
ございます

起きて  
ください

お時間ですよ

そついうのは  
あなたの仕事じゃ  
なかったかしら!?

—とか

しつわあし

しつわあし

紅茶の一杯も  
持ってベッドサイドに  
ひざまずけとは  
いってないし

ん...

フム...



そんな過度な  
期待はしてないから

せめて  
朝のジョギング  
くらいは  
ちゃんとつき合いなさるこ

すみません

あしたからは  
待たないわよ

そんなめ

わたし

わたし

うんざり

おじょうさま

なぜ  
わざわざ  
ご自身を  
危険な目に  
遭わせるような  
ことを  
なさるんですか？

もう少し  
ご自身のことを  
大切に…



大小路の名まえに  
守られるより  
しばられてる  
そんな感じがイヤなのよ

私は強く  
ならなくてはいけない

そんな私に  
ついてこれない  
執事なら  
いららないから

ただ  
大小路の跡つぎ  
だという自覚も  
責任もあるから

いつでも  
やめてくれて  
いいのよ

いえ

私はお嬢さまのための  
執事ですから

お嬢さまが水のなか  
いくのなら水のなかへ  
火のなかへ飛びこむと  
いうのなら  
火のなかへごいっしょに



いつだって  
私はあなたとともに

お母さん



はいっ  
おじょうさまっ

無駄口は  
いいから  
さっさと  
いくわよっ

最初に  
身の危険を  
感じたのは  
赤ん坊のころ

私の初節句の  
お祝いの人形を買った  
リムジンに両親とのつて  
いたところに  
3メートルトラックがつつこんできた

父も母も即死  
奇跡的に助かった私



ただの事故と  
かたづけられたのは  
表向きで

父と母は  
暗殺されたのだと  
わかった

祖父が父に  
会社の全権をゆずって  
まだ  
1ヶ月もたっていない  
時期だった

そうして  
両親を失くした  
私にと  
祖父が与えて  
くれたのが

私の  
ボディガード  
兼  
私のための  
執事である

式神 真

大路家  
執事 正装

みた目は「ほい」のどろ  
私も思うけど……







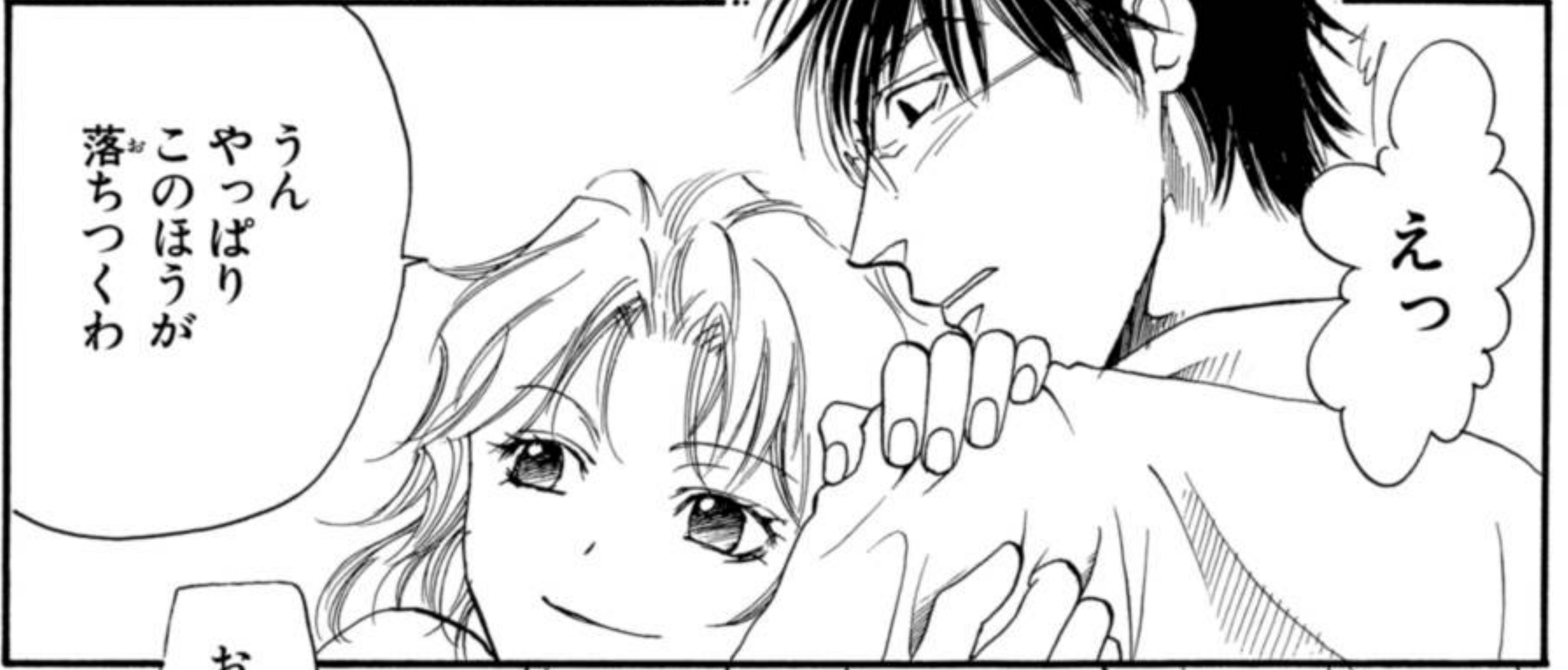
えーほら  
麗華<sup>れいか</sup>さまも  
さわってくださいよ  
なんか  
いやされますよー♡

おい

.....

どうせ  
さわるなら

大<sup>お</sup>つきいほうが  
効果<sup>こうか</sup>ありそう



えっ

うん  
やっぱり  
このほう  
が落ちつくわ

おじょうさまっ

そのほうが  
使<sup>つか</sup>えない  
執事<sup>しつじ</sup>よりも  
役に立<sup>た</sup>ちそうね



やわしい真<sup>まこと</sup>  
かわいい真<sup>まこと</sup>

ライオンとか  
トラでも飼<sup>か</sup>おうかしら



あー...  
あんたは  
そのまんまで  
いいのよ

あ

ほら  
走るわよ

はっ

はいっ

なんて



いつもいっている  
ことだけどね



絶対  
いつてあげない

とりあえず  
学校がっこうにいる間は  
安全あんぜんなんだから

あんたは  
学生がくせいとして  
やるべきことを  
やりなさい

でも

これは  
命令めいれいよ



はい!



あ

うん

それなら  
俺おれも好き



みびたらし





同級生...  
かしら

俺も!



こんなに  
たのしそうに  
笑うのね

「俺」なんていうの  
はじめてきいだわ

よく考えたら  
真はまだ  
15歳の男の子  
なんだわ



私さえいなければ...



私という  
存在さえなければ

Umm.

あっ

きゃあっ

麗<sup>れい</sup>華<sup>か</sup>おじょう<sup>じょう</sup>さま  
っっ!!

